

東浦町議会 広報特別委員会 行政視察 報告

- ◆期 日 : 2023年10月24日(火) 14:30~16:00
- ◆視察参加者: 前田明弘、間瀬宗則、久松純志、赤川操恵
杉下久仁子 議員、勝亦亜希子 主事
- ◆大山崎町 : 広報常任特別委員長、副委員長、事務局次長

1. 視察先

○京都府 乙訓郡大山崎町 (おとくにぐん おおやまざきちょう)

2. 視察先の選定理由

～ 読者の目を引くわかりやすい企画について ～

○京都府乙訓郡大山崎町は全国町村議会広報コンクールで令和2年度に奨励賞(企画・構成)「季刊議会」というコーナーで賛否の分かれた議案の論点を簡潔に示し、賛成・反対の意見をコンパクトにまとめるなど、読者の目を引きやすいと好評を受けられた広報は、本町議会だよりでも参考にしてより充実させたい点である。また、記事の内容、配置、流れ、情報量等が的確であり、住民の目を引くため議会の機能や閉会中の活動を紙面で伝えたり、住民へのインタビュー等を活発に行ったりしており、本町にも参考になると考え選定した。

3. 京都府乙訓郡大山崎町の紹介

- * ～ 自然豊かな子育てのまち ～
- * 議員数 : 12名(男性10名 女性2名)

4. 広報紙の概要

○議会だよりの発行状況について

- ①人口 : 16,590人(令和5年10月1日現在)
- ②発行部数 : 7,380部(町広報紙と同数)
- ③発行回数 : 年4回
- ④予算 : 印刷製本費・・・836千円
- ⑤仕様 : A4版12ページ、表紙・裏表紙カラー刷り、本文2色刷り、用紙:上質
- ⑥体制 : 広報常任委員会委員 6人、事務局職員
- ⑦配布方法 : 町内全戸配布(町広報紙へ中挟み)
公共施設等に配布(配布はシルバー人材センターへ委託)

5. 議会広報紙の編集

○目指したのは「読まなくてもいい」議会だより

- ①手にしやすさを意識して・・・表紙で読者に訴求、紙面の軽さを追求、身近な存在
- ②紙面の変化
・・・議会のことを知ってもらうきっかけに
→ ◇議決結果を詳しく紹介
→ ◇当初予算や決算などの特集を充実

→ ◇広報広聴の取り組みを随時紹介

- ③表紙で読者に訴求
- ④目がとまる表紙（裏表紙に）
- ⑤紙面の軽さと見ようと思われる工夫
- ⑥文字を画像化した議決結果
- ⑦興味が持てる一般質問に
- ⑧身近な存在を（町民の登場）
- ⑨広報編集方針の作成・・・議会だよりは読まれる、にこだわって
- ⑩今後の課題　　・・・　→ ◇常に進化を心がけ
→ ◇タイムリーな発信
→ ◇動画配信

6. 大山崎町への行政視察に係る質問事項について

- ①一般質問のページがとてもコンパクトにまとめられています。記事の内容をもう少し増やしてほしい等の声はありますか。
- ②1 ページ内に縦書きと横書きが混じっているページがありますが、見せ方の工夫は。
- ③フォントの大きさ、種類はどのように決定しましたか。
- ④特集記事の内容の選定方法は。
- ⑤季刊議会コーナーの目的、発想した経緯や評判は。
- ⑥議会広報コンクール令和2年度企画・構成部門奨励賞の受賞理由に、「季刊議会」のもとの再編集とありますが、工夫した点は。
- ⑦令和4年度一般会計予算の詳細 QR コードで広報等へ誘導しています。予算総額や内訳など、もう少し情報量を増やしてほしいとの声はありますか。
- ⑧編集作業等（紙面構成、原稿作成、写真撮影、デザイン・レイアウト）における。事務局と委員会の役割分担は。
- ⑨読者の意見や感想の集約方法は。
- ⑩議会広報紙への町民の反応は。
- ⑪表紙の選定方法は。表紙と本編との関連は。
- ⑫議会だよりを住民に読んでもらうための工夫はありますか。

7. 所感

- ① 目指したのは「読まなくてもいい議会だより」という目標に向かって、議会広報を今まで手にすることがない人に対して、手にするきっかけを作り、読者を増やすためにどのような紙面づくりが必要かを考え、毎号改善されている取り組み姿勢が一番印象に残りました。一般質問は紙面を極力縮小、代わりに議決結果を議員の写真入りで詳しく紹介、当初予算や決算などの特集を充実させるなど、議会のことを知ってもらう「きっかけ」になるよう工夫されていることを理解しました。要は、読者（住民）が議会広報紙に何を求めているのか、を掘り下げて考えた結果として、貴重な示唆をいただきました。
- ② 町村議会広報全国コンクールで令和2年度、奨励賞（企画・構成）を受けられた。大山崎の議会広報常任委員会を視察した。きめ細かい資料の作成と説明に今後の参考になる内容が多く存在した。平成26年度に常任委員会に位置づけ、令和元年9月に表紙を刷新したり地域住民に関心事に寄り添い、議員の議案に対する賛否及び理由のみにこだわり、質疑内容より優先しているのは、地域の特性が感じられた。
- ③ 広報編集方針で、「議会だよりは読まれる、にこだわって」が伝わってくる表紙は、目次を詳細に書かず、特集とお知らせ程度にして、手に取って中に何が書かれているが誘導するレイアウトでした。そして、4つの柱の一つ「住民が見たいと思うものに」の「ライバルは、書店に並ぶ雑誌」とあるように、紙面の余白を活かした読み手に負担の少ない文字量の軽さがあり、本町でも見習い点である。また、誰のための議会だよりなのかを明確にし、「議会のための議会だよりから、街のための議会だより～情報に想いをのせて～」との姿勢は本町でも取り入れたい点と感じました。特に、毎号12ページの制約がある中、一般質問は1ページに3人また4人を掲載し、議案で賛否が分かれたり疑義がある案件に重点を置いた「季刊議会」を充実させる姿勢は、住民が何に関心を持っているかを軸にしており、参考にしたいです。
- ④ 住民目線での読みやすさ、手にとってもらいやすさの追求を感じました。
（具体的には）
 - ア. 余白が多い。
 - イ. 12ページという薄さや軽さ。
 - ウ. 目次を省きページの端にインデックスを付けた。右ページには各項目、左ページには次のページに掲載している項目が書いてあり、ページを探さなくても見たい箇所に飛べる工夫。
 - エ. 一般質問はもちろん、賛否にも顔がつけてあるので、視覚的にわかりやすい
 - オ. 題字を毎号住民の方に書いて頂いていると伺いました。親しみやすい、身近な議会広報になっている。
- ⑤ 令和2年度議会広報コンクール企画・構成部門奨励賞を受賞された実績は奥が深く住民の方々に伝える力、発信の力強さにはこころに響く内容であった。我々の質問にも丁寧に説明をいただき、内容が豊富でレベルの高さには感服した。すばらしい発見であった。

東浦町議会 広報特別委員会 行政視察 報告

- ◆期 日 : 2023年10月27日(金) 13:00~15:00
- ◆視察参加者: 前田明弘、間瀬宗則、久松純志、赤川操恵
杉下久仁子 議員、勝亦亜希子 主事
- ◆かつらぎ町: 議長、副議長、委員長、副委員長、委員(3名)
事務局長、主査

1. 視察先

○和歌山県伊都郡(いとぐん)かつらぎ町

2. 視察先の選定理由

～ 住民の関心や質問に答える形でわかりやすい説明について ～

○和歌山県のかつらぎ町は全国町村議会広報表彰において「予算審議のテーマに沿った住民のコメント等、幅広い住民の登場が議会に活気を醸し出している」との講評をいただいている。また、広聴活動を通じた住民の議会への関心の高め方や読みやすい紙面のレイアウト、議事公開の的確さが評価されており、本議会だより生かせるのではないかと考え選定した。

3. 和歌山県伊都郡かつらぎ町の紹介

- * ～ 豊かな自然と歴史文化 世界遺産とフルーツのまち ～
- * 議員数 : 13名(男性12名 女性1名)

4. 広報紙の概要

○議会だよりの発行状況について

- ①人口 : 15,202人(令和5年10月1日現在)
- ②発行部数 : 6,500部(全戸配布)
- ③発行回数 : 年4回
- ④予算 : 印刷製本費・・・2,363千円
- ⑤仕様 : A4版28ページ、表紙・裏表紙中2面はカラー刷り、本文2色刷り
用紙: マット紙、10.5pt
- ⑥体制 : 議会だより編集特別委員会委員6人、議長はオブザーガー、事務局職員
- ⑦配布方法 : 自治会・町内会等を通じて全戸配布

5. 議会広報紙の編集

○8つの基本原則

- ⑧議会広報紙への町民の反応は。
- ⑨表紙の選定方法は。表紙と本編との関連は。
- ⑩議会だよりを住民に読んでもらう工夫はありますか。

8. 所感

- ① 「住民こそ主役の立場で編集する」「住民の目線で編集する」という編集方針に向かって、議会だより編集委員全員が、その考えを共有して取り組む姿勢が一番印象に残りました。住民参加の紙面づくりは寄居町を参考にしたということですが、実際に行う大変さを体験しながら、住民の取材を徹底して続けている編集方法や議会モニターは今後の参考にしたい。見出し、リード文、概要、議案の内容などで立体的な紙面を作ることについて、私たちも意識していますが、質疑で事実関係を明らかにすることが主体で、もう一步踏み込む必要があると感じました。
- ② 町村議会広報全国コンクール令和2年度、奨励賞（編集・デザイン部門）令和3年度、8位入選と高い評価を得て居る広報紙のため、多くの質問を準備して臨んだ。概要比較に説明は、まとめられ今後の参考になった。印象的には、本町の議会だよりの構成と同じで、余白が多く、読みやすさを感じた。また、「議会モニター」の活用、「議会傍聴アンケート」など常に、住民の意見を聞き、住民が個別に登場すると興味がわくという観点から、紙面づくりを考え、取り入れていいもの・参考になるものを、すぐに取り入れる姿勢は高く評価したい。
- ③ 大山崎町と同じように、表紙から中身へ何があるか関心を持ってもらえるよう、主要な項目を載せ、議案名でなく事業内容がわかる見出しにしている点があり、参考にしたいものです。住民の幅広い参加は、紙面づくりの多くを業者へ依頼していることから可能となっているが、ラフレイアウトは広報委員会の正副委員長で上程前の議会運営委員会終了後に作成、その後、審議内容によって変更はあるが手書きレイアウトを作成し、一般質問や会期中に取材をした内容を記事にすること、行っているため業者任せではないことがわかりました。
- ④ 住民の方が11人も顔写真付きで声を寄せてくださっている（表紙写真は除く）。議会と住民の距離の近さを感じました。
- ⑤ 広報委員は立候補制とのこと。徹底した取材、ワンチームで作り上げる熱量を感じました。
- ⑥ 視察先で学んだことを広報紙に反映すると伺いました。学びの姿勢と柔軟性を取り入れていきたいと思います。
- ⑦ 1週間の中での、京都府大山崎町・和歌山県かつらぎ町の視察であった。共通点としては、議会が町民に対してどのような手段でコミュニケーション能力を保ち高めていくことができるかの方向性である。本町の議会だよりも内容や方法についてなど課題がまだ多く、

できるものからスタートしたい。さっそく 11 月 8 日（水）石川県かほく市議会広報委員会視察受入の際、質問内容について事前に担当を決定し広報特別委員会の全員で答弁した。なお、かつらぎ町は関西地区の「住み続けたい街」第 3 位です。（11 月 23 日発行ナンバー 10841 号・裏表紙）